

令和5年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)
主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和5年6月16日(金)

開催場所:生野区役所 5階 502・503会議室

| ご意見等(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---|---|
| まちづくりには、「やりたいこと」と「やらなければならないこと」がある。まちの魅力とか地域の活性化っていうのは、「やりたいこと」、区民、市民の人たちがこんなことをしたら面白いことを仕掛けてやっていくうちに上がっていくものかと思う。 | |
| もう既に民間で動いているところが、もしかしたら、生野区にあるのかなと。個人単位でやっているところを、区がどういうふうな表現で見せていくのかっていう、ポジショニングになれば面白い。 | |
| カウンターパートという問題で、面白い地域とは、行政が頑張るのではなく、大体、地域の情報発信をしている個人やNPOがあったり、面白いお店、バルをやっているとか、面白い、生きのいい動きっていうのがまちにあって、それをどんどんいろんな発信の仕方をすることによって、住みたいなって思わせる、思うようになっていくという、何か熱量があるような気がしている。 やりたいと思ってる人たちが、面白がって取り組んでいる間に、魅力というのは増すものだと思っている。 | まちの魅力向上、地域活性化に向けた取組には、面白く、そして楽しみながらの仕掛けづくりといった熱量の高い方々の力がとても効果的と考えられ、そのような方々、個人、団体、企業を問わずに生野区のまちで活動されておられる方々も含めて、活躍いただけるような機会を創出できれば、より魅力あるまちづくりにつながるものと認識しております。 |
| もしかしたら、気づいていないだけで、まちをよく見たら、生野を反転させかける人っているのかもしれないし、よく知らないだけではないのかと。こんな面白いことをやってる人たちのことをよく知らないで、生野区は魅力がないと言ってるのかもしれないことに注意しないといけないと思う。 | |
| 今後は生野区で面白いことをやりたいという人をどう増やしていくか。そして、地域としてはそれをどうバックアップをしていくのか。「まちづくりなんて面白がっていればいいんだよ」ということを言ってあげる大人がいるっていうことが必要かもしれない。面白がって、無責任にやれという、この無責任さが多分、何か未来の責任を持つことになるのかなっていう、こういう時代に入ってきたるんかなって思う。やりたいと思うことを、どう邪魔せずに、協力していくかがいうことが大事。若者がチャレンジできるまち、それを支援できるまちになると活性化していくと思う。 | まちづくりを進めていくにあたり、地域の大人だけでなく、若年層が楽しく、面白く取り組んでいくことも、大きな力になるものと認識しております。そういう若者が積極的にまちづくりにチャレンジできる、そういう土壌が生野区のまちに広がっていくことが、将来の持続可能なまち、発展していくまちにつながっていくものと考えられます。 |
| 自分たちの主体性、何をしたいのかというのを住民側が自分たちで湧き出してくるというか、生み出してくるというか、そういうことをいろんな場所でできるような仕掛けということをまずやる必要がある。 | まちづくり協議会(地活協)の自主的な取組につきましては、現在、まちづくりセンターによる支援を進めているところですが、今後もまちづくりセンターの持つノウハウを活用いただけるよう地域とまちづくりセンターとの連携を深めるよう取組を進めてまいります。 |
| 生野区でよくスタンプラリーを各地域でされている。特に、巽のほうとかは、すごく大きな規模でやられてて、あれが生野区全体に広がれば、もっと面白い。 例えば、生野区内で食べていただける食事券だとかそういう形に変えて、生野区以外の人をもっと生野区の奥のほうに呼び込むような企画が、民間と協力してできたらいい。 | いただいたご意見のとおり、地域では、まちの活性化に向けた様々な活動をされております。それらが、区内の各地域にも広がっていくことで、まち全体の活性化につながっていくものと考えられ、ご提案の取組についても、地域の力と民間事業者のノウハウやアイデア、集客力が掛け合わることで、より大きな流れが生まれる可能性があるものと考えられます。 |
| 生野区は外国人が多く住んでいるので、その人たちにもいろいろなイベントを立ち上げてもらって、まちの活性化を促していくばいいのではないか。 | ご指摘のとおり、多くの外国人住民の方々が当区に居住いただいているところでありますので、まずは地域と交流して地域のイベントへ参加いただけるようにまちづくりセンターと連携して促してまいります。 |

| ご意見等(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|--|--|
| まちの活性化は、つまるところ、若い子たちがどれだけ定住したいかなっていうところに尽きると思う。 | 生野区のまちが持続可能で発展していくまちになるためには、次世代を担う子どもたち、若年層の定住は欠かせないことから、生野区としても、区の特性を活かした様々な施策をとりながら定住促進に努めてまいります。 |
| 例えば、生野区が管理している空き家はこれだけあります。来てくれた人に対して生野区って、何か始めやすいです、空き家のストックがこんだけあって、マッチングさしてもらいます、とアプローチできれば、大きなイベントの単発の一発じゃなくて、継続する意味のある目的を持った、深い目的を持った一発になる。 | 当区におきましては、不動産市場に出ていない空き家を利活用することでコミュニティを生み出し、まちを盛り上げる活動をしておられる「生野区空き家活用プロジェクト運営委員会」があり、定期的に情報交換を行っておられます。これらの取組の周知を今後、更に進めてまいります。 |
| まちの魅力を高めると言うわりに、まちの魅力として伝え継いでいるだんじり祭りがちゃんとできない状況にある。周辺地域に住んでいる人も、もう少し伝統行事に理解を示してほしい。 | だんじり祭りなど地域の習俗的な行事を通じたコミュニティへの理解の醸成は、地域の特性などを踏まえて進めていただく必要があります。地域の取り組みを通じて、理解の醸成が深まるよう区役所としても必要に応じた支援をしてまいります。 |
| コリアタウンに多くの人が訪れていることはまちの魅力ではなぬか。まちの魅力っていうときに、どうも定住人口を増やすところにフォーカスをしているが、来街者数を増やすこともまちの魅力向上かと思う。 | コリアタウンには今や年間200万人の人々が訪れる一大観光地となっており、生野区のまちにとどても大きな魅力資源となっています。委員ご指摘のとおり、人々の定住だけでなく、リピーターも含めてたくさんの人々が訪れるまちにしていくこともまちの魅力向上の取組と考えられます。 |
| ものづくりの技術が高い生野区であるが、自社商品や区民が買える商品を作っていく、それを広げていくというところまで、ものづくり産業を再生・活性化させていくプランを構築していく必要があるのではないか。 | 当区のものづくりに携わる企業の多くは「B to B」いわゆる企業間取引が多い業態であり、一般消費者である区民が購入する製品づくりには至っていない現状があります。今年度、取り組みを進めている「生野区ものづくりタウン事業」においては、企業間ネットワークの構築とともに「B to C」に向けた製品づくりも視野に調整を進めています。 |
| 空き家の利活用について、空き家活用株式会社と連携しているが、何軒の空き家がどのように変わってどのような取組が増えたのか。空き家を活用することで魅力がどう増したのかなどについて知りたい。 | 当区のホームページ上では「いくのDEリノベ」という空家等を利活用することにより、まちの魅力が増している事例を32回にわたり紹介しております。また、本市都市整備局の空家利活用改修補助事業のホームページ上では当区の「はたけもり」という事例が紹介されております。空き家活用株式会社との連携協定等による利活用事例は現在(R5年6月)のところありませんが、事例が出来次第上記と同様の広報を進めるよう検討いたします。 |
| いまととライナーとオンデマンドバスについて、どのコースにニーズがあるのか。これをやることによって誰がどのように喜んで、何かどうよくなっているのか。 | いまととライナーはあべの橋行き・長居方面行きとも通勤通学の手段として利用が定着しており利用回数は年々増加しています。また、オンデマンドバスは生野区役所、鶴橋駅、桃谷駅、寺田町駅などへの利用が多く見られます。これらの取組により、区民の利便性が向上しており、移動に関して身体の負担が少ない環境を創出しています。 |
| 住みたい、住み続けたいというまちにするには、やっぱり大きなアクションをおこさないといけないのではないか。 | まちを大きく変えるエネルギーは、生野区の場合、個人、団体、企業を問わずまちに暮らす人々、まちに関わる人々に宿っているものと認識しております。この度、生野区では、2025年大阪・関西万博の開催を景気に、そのような人々のエネルギーを最大限に引き出せるように、様々な仕掛けづくりに取り組んでまいります。 |

| ご意見等(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---|--|
| 行政は硬い、関わりづらいイメージがある。もっと民間との距離を縮め、協力し合えたらいいと思う。 | まちづくりをはじめ、まちの様々な課題に対しては、従来のような行政主導だけではなく、民間の多様なノウハウやアイデアが必要になっています。そのため、当区としても公民地域連携という手法でもって、様々な取組を進めてまいります。 |
| ネットで「生野」と検索すると、「おもろいまち」みたいなのが上位に来るよう、何かブランディングが定着すればすごい。勝手に「生野区、あそこめっちゃ住みやすい」とか発信するのも面白い。 | |
| 教育をアプローチできるまちだったら、もっと何か協力し合いながら育めるような環境をつくれたら住みやすいまちに変わるんじゃないかなと。教える教育もあれば共に協力し合いながら育む共育もあり、これを相まったところが何か住みやすいまちに近づくんじゃないかと思う。 | いただいたご意見のとおり、生野区のまちが、暮らしても、遊んでも、そして働いても面白いまち、となるように区の特性を活かした様々な施策をとりながら、区の内外に効果的にプロモーションを進めてまいります。 |
| 最近では、名所旧跡に行くのではなく、普通にそのまちで暮らしているような旅がしたいという、暮らし観光という動きがあつたりする。何なら、ゆくゆくそこに移住したいっていう人たちのお試し移住として、宿屋をやるみたいなことが全国的に起きてきている。そういう魅力の出し方もある。 | 生野区のまちには、市内の都心部とはひと味違うレトロで趣のある街並みがあります。いただいたご意見のとおり、そういったところも区のまちの特性、まちの魅力のひとつとして打ち出していくことも、まちのプロモーションとして有効なものと考えられます。 |